平成26年度
宜野湾市平和学習派遣事業

派遣報告書

平成26年8月7日～8月10日
長崎県長崎市

沖 縄 県 宜 野 湾 市

市長あいさつ

宜野湾市長　佐喜眞　淳

平和学習派遣事業は平和行政の推進を目的に、平成１７年度より開始され、今年度で９回目の実施となりました。市内各小中学校から選出された児童生徒を被爆地長崎へこれまでに述べ７２名を派遣し、毎年８月９日に行われる「平和祈念式典」及びその前日より２日間に渡り開催される「青少年ピースフォーラム」に参加し、全国の青少年と共に、戦争の愚かさ、悲惨さ、平和の大切さを学んでおります。

先の大戦で経験した、沖縄での地上戦や広島・長崎を一瞬にして廃墟と化した原子爆弾投下。このような惨劇が二度とこの地球上で繰り返されることのないよう、過去の歴史をしっかりと若い世代へ伝えていく、そしてその中で平和の大切さを改めて実感させ、「戦争も核兵器もない、平和で希望ある世界」を目指す、という本事業の役割はいよいよ重要となっております。

唯一の被爆国として、日本が、核兵器廃絶の実現に向け、国際社会において主導的役割を果たすことを期待いたします。
本市におきましても、昭和 60 年に反核・軍縮平和都市宣言を行い、平和市長会議と連携し、核兵器の非人道性を訴え、全世界に向けて核兵器廃絶を求め続けております。

現在、日本国土のわずか 0.6%の小さな島沖縄に、在日米軍施設の約７５%が存在しております。市域の約 33%が米軍基地に占められ、なかでも市の真ん中に居座る普天間基地は市域の約 25%を占め、ドーナツ状の街を形作っております。この特異な地形は、市の発展を大きく阻み、そして何より市民の生命・財産を脅かし続けております。さらに、2014 年夏には、普天間飛行場へ MV-22 オスプレイが強硬配備されたことにより、市民の基地負担はもはや限界に達していると言わざるを得ません。ついては、関係機関と連携し、普天間飛行場の一日も早い閉鎖・返還に向け取り組んでまいります。

さて、来年、戦後 70 年という節目の年を迎えます。年々戦争体験者が減少していることに伴い、戦争の悲惨さ、平和の大切さを語り継いでいくことが困難となりつつあります。しかしながら、今を生きる私たちは、次の世代へと戦争の悲惨さ、平和の大切さを継承していく義務があります。派遣生徒の、皆様には今回の平和学習を通して、命がいかに尊くかけがえのないものなのかを学び、これからも平和を強く意識し成長されることを願います。
本市といたしましても、沖縄戦及び原子爆弾によりお亡くなりになられた人々を追悼し、再び悲惨な戦争が起こらないよう、平和事業をとおして平和の大切さ、命の尊さを次の世代へと語り継いでまいります。

最後に、この事業にご参加いただきました生徒やその保護者の方々へ、本事業への多大なるご理解ご協力に対して御礼を申し上げますとともに、市民の皆様には平和な社会の創造に大きく貢献していただき、近い将来「戦争も核兵器もない、平和で希望のある世界」が実現されることを祈念いたします。

目次

実施概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

団員名簿・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4

事前学習・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5

派遣日程・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6

長崎市内視察・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7

被爆遺構巡り・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8

長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9

青少年ピースフォーラム・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10-12

長崎平和宣言（長崎市長　田上　富久）・・・・・・・・・・・・・・13-14

平和への誓い（被爆者代表　城臺　美彌子）・・・・・・・・・・・・15-16

その他　資料・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16

派遣生徒報告

- ■ 普天間中学校　１年　宮里　麻比・・・・・・・・・・・・・17
- ■ 普天間中学校　１年　砂川　美寿紀・・・・・・・・・・・・18
- ■ 真志喜中学校　３年　池間　ブランドン　慎・・・・・・・ 19
- ■ 真志喜中学校　２年　タァ　ゼイヤ　シャミック・・・・ 20
- ■ 嘉数中学校　３年　呉屋　武郎・・・・・・・・・・・・・21
- ■ 嘉数中学校　３年　平安山　里奈・・・・・・・・・・・・22
- ■ 宜野湾中学校　３年　大城　竜二・・・・・・・・・・・・・23
- ■ 宜野湾中学校　２年　宮城　凜子・・・・・・・・・・・・・24

実施要綱・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25-26

平和都市宣言（宜野湾市）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・27

実施概要

1．背景と目的

戦後６９年が経過し、かつて沖縄戦において悲惨な体験をした世代が減少している今日、戦争を知らない世代が平和について学ぶ機会を作ることは、本市の平和行政を推進する観点から大変重要なことです。

特に本市においては、沖縄戦当時嘉数地区に日本軍の前哨基地があったことから、市内で激しい戦闘が繰り広げられ、多数の住民が犠牲になりました。

この過去の事実をしっかり捉え、戦争を知らない世代に正しく継承していくことは私たちの責務です。

本市では市内生徒（中学生）を対象に、沖縄戦を学びながら、去る大戦での被爆地長崎を訪問する「宜野湾市平和学習派遣事業」を実施しております。

毎年８月９日に開催される「平和祈念式典」及び「青少年ピースフォーラム」へ参加し、全国の青少年と交流をする中から命の尊さや平和の大切さを学ぶことによりこれからの平和な社会を築くことを目的とします。

2．実施経過

□　平成２６年４月１５日
　宜野湾市長より宜野湾市教育委員会へ事業協力依頼

□　平成２６年４月１６日
　小中学校長会議において事業実施説明

□　平成２６年７月１６日
　派遣生徒・保護者を対象に事業実施説明会

□　平成２６年７月２８日
　派遣生徒を対象に事前学習会

□　平成２６年８月７日～１０日
　長崎市で平和学習実施

□　平成２６年９月１６日
　市長及び教育長へ平和学習派遣報告

団員名簿（平成２６年度宜野湾市平和学習派遣事業）

学 校 名	氏　名	学　年
普天間中学校	宮里　麻比	１年
普天間中学校	砂川　美寿紀	１年
真志喜中学校	池間　ブランドン　慎	３年
真志喜中学校	タァ　ゼイヤ　シャミック	２年
嘉数中学校	呉屋　武郎	３年
嘉数中学校	平安山　里奈	３年
宜野湾中学校	大城　竜二	３年
宜野湾中学校	宮城　凜子	２年
真志喜中学校 教諭	比嘉　学	引率
宜野湾市役所 市民協働推進課	當山　太一	事務局

事前学習

長崎への派遣に先立ち、第２次世界大戦における唯一の地上戦である沖縄戦について学ぶことを目的とし、嘉数高台公園における屋外学習及び平和祈念資料館における学習を行いました。

期　日：平成２６年７月２８日（月）10:30～17:50
場　所：嘉数高台公園・平和祈念資料館

沖縄戦で激戦地となった嘉数高台公園にて戦跡の見学を行いました。
また、展望台より普天間飛行場を眺めながら、普天間飛行場の現状について学習しました。

平和祈念資料館の学芸員の方に、沖縄戦の経過について講義を行って頂きました。
講義終了後には、「皆さんが平和のためにできることを考えてほしい」とのメッセージを頂きました。

常設展示場にて豊富な資料や映像等を通して沖縄戦に至るまでの歴史や沖縄戦の実相について学習しました。

平和の礎を見学しました。
平成２６年６月現在の刻銘者
宜野湾市：　5,431 名
沖縄県　：149,329 名
全体　　：241,281 名

派遣日程(平成２６年度 宜野湾市平和学習派遣)

月　日/時　間	行　　程
8月7日(木)	
8:00	那覇空港国内線 3階：ＡＮＡツアーカウンター前集合
10:00	那覇発　（ＡＮＡ４８２便にて福岡空港へ）
11:40	福岡空港到着　貸切りバスにて長崎へ（所要約2時間）
12:30	途中、「福岡観光会館はかた」にて昼食
15:00	貸切バスにて長崎市内視察(◎出島資料館、◎グラバー園）
18:30	長崎市内レストランにてタ食
20:00	◎稲佐山ロープウェイ視察
21:00	ホテル着

8月8日(金)	
7:00	ホテルにて朝食
	路面電車にて移動
9:00	徒歩にて被爆遺講めぐり
	◎平和公園　◎山里小学校　◎如己堂･永井隆記念館　◎浦上天主堂　◎原爆落下中心地碑
12:00	園田真珠にて昼食（飲茶料理）
	青少年ピースフォーラム(参加型平和学習Aコース)
13:00	ピースフォーラム参加受付（平和会館ホール）
14:00	青少年ピースフォーラム（被爆者体験講話）
15:10	班別交流会(平和会館ホール　15:10～17:00)
17:15	路面電車にて移動
18:00	夕食交流会（長崎新聞文化ホール）
19:30	交流会終了後、ホテルへ
20:00	ホテル着

8月9日(土)	
7:00	ホテルにて朝食
8:00	路面電車にて　長崎平和公園へ
10:35	「原爆犠牲者慰霊平和祈念式典」
12:00	和泉屋にて昼食（中華セット）
13:30～15:30	青少年ピースフォーラム(参加型平和学習Aコース)
１６:００	国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館　見学
	見学後、長崎市内レストランにてタ食
１９:00	ホテル着

8月10日(日)	
7:00	ホテルにて朝食
8:00	貸切バスにて移動
10:00	◎福岡タワー　見学（約1時間）
11:40	◎太宰府天満宮　見学
	太宰府天満宮本殿裏「照星館」にて昼食（合格御膳）
13:30	貸切バスにて福岡空港へ移動
14:00	福岡空港着→搭乗手続き
15:05	福岡発　ＡＮＡ491便にて沖縄へ
16:40	那覇空港着

長崎市内視察（８月７日）

８月７日、長崎市内の名所等を巡り、歴史・文化に触れました。

◎ コース　グラバー園　⇒ 出島資料館 ⇒　稲佐山ロープウェイ

▲大浦天主堂前にて

▲グラバー園にて西洋の文化に触れる

▲出島資料館の着物姿の係員さんと一緒に

▲出島資料館にて皆で記念撮影

▲「とれとれ旬家」にて夕食

▲稲佐山の展望台にて

被爆遺構巡り（８月８日）

２日目、原爆資料館を見学しました。たった一発の原爆によって一瞬にして変わってしまった長崎の街や人々の暮らしについて、また、今なお存在する核兵器とその脅威について、資料を通して学びました。

資料館内には、１１時 2 分を指して止まった柱時計、長崎型原爆の実物大模型などがあり、皆、熱心に見入っていました。

現地平和案内人　鈴木 洋一 さんを講師に招き、被爆遺構巡りを行いました。

コース：原爆落下中心地⇒浦上天主堂⇒如己堂・永井隆記念館⇒山里小学校⇒平和公園

▲鈴木 洋一さんに原爆中心地を説明してもらう

▲平和の母子像前にて

▲重さ 50ｔの鐘楼が 35m も吹き飛ばされた

▲如己堂 「己の如く隣人を愛せよ」 永井隆博士

▲山里小学校には戦時の防空壕が保存されている

▲平和公園にて

長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典　参列

平和祈念像を背景に

児童合唱「あの子」

長崎市田上市長による「長崎平和宣言文」の読み上げ

被爆６９周年長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典へ参列しました。
核兵器の廃絶と恒久平和の実現に向け、平和の輪を世界中に広げていくことを誓いました。

青少年ピースフォーラム

平成２６年度青少年ピースフォーラム

期日：平成２６年８月８日(金)～９日(土)
主催：長崎市

８月９日の平和祈念式典にあわせて、全国の自治体が派遣する平和使節団の青少年のみなさんと長崎の青少年ピースボランティアの皆さんが一緒に被爆の実相や平和の尊さを学習し、交流を深めることで平和意識の高揚を図ることを目的として実施しています。

■　プログラム

<table>
<tr><th>日</th><th>時</th><th colspan="2">内　容　＜場　所＞</th></tr>
<tr><td rowspan="3">１日目
8/8
(金)</td><td>14:00
14:50</td><td colspan="2">開会行事　＜平和会館３階ホール＞
被爆体験講話　　深堀　譲治さん</td></tr>
<tr><td>15:10
17:00</td><td colspan="2">コース別の参加型の学習により、被爆の実相を学びます。</td></tr>
<tr><td></td><td>Ａコース
あの夏の日を忘れない
～６９年前の長崎～
＜平和会館３階ホール＞</td><td>Ｂコース
被爆建造物等のフィールドワーク
～歩いて学ぶ６９年前の長崎～
＜原爆資料館周辺〉</td></tr>
<tr><td></td><td>18:00
19:30</td><td colspan="2">交　流　会（希望団体）
＜長崎新聞文化ホール＞</td></tr>
<tr><td rowspan="3">２日目
8/9
(土)</td><td>午前</td><td colspan="2">平和祈念式典への参列＜平和公園内平和祈念像前広場＞
もしくは、長崎市立桜馬場中学校の平和集会への参加</td></tr>
<tr><td>13:30
15:30</td><td colspan="2">コース別の参加型の学習により、平和の尊さについて考えます。</td></tr>
<tr><td></td><td>Ａコース
平和な世界をつくるために
～届けよう！平和の想いを私から～
＜平和会館３階ホール＞</td><td>Ｂコース
Challenge to the future
＜原爆資料館平和学習室＞</td></tr>
</table>

青少年ピースフォーラム　Ａコース（１日目）

■ 被爆体験講話

講師：深堀 譲治さん

１９４５年８月９日、原爆が投下された時、母と弟２人、それに妹の４人が、爆心地から約６００ｍのところで被爆した。母と下の弟、妹は即死し、上の弟はどうにか生き延びたものの、徐々に放射能が身体を蝕んでいき、「兄ちゃん、死ぬなよ。」という言葉を遺して、亡くなった。

原爆落下後の長崎の市街地においては、死体が散乱し、体育館は負傷した人で溢れかえっていた。

あの不条理な経験を後世の人たちにさせてはならない。

深堀 譲治さんからのメッセージ

・「国の指導者の一方的なリードで、一般国民は大切なことを知らされないまま、戦争に参加し、敗戦へと導かれ、大きな犠牲を強いられました。国民は、常に国が暴走しないように、監視を続ける努力が必要です。」

ピースボランティアによる紙芝居を鑑賞し、原爆の恐ろしさ・核兵器の実相について学びました。その後、全国の青少年を 13 グループに分け、ピースボランティアの進行により、レクレーションとして自己紹介ゲームを行いました。後半は「平和だと思うとき」をテーマに意見交換を行い、出された意見を模造紙にまとめました。

グループ学習

長崎市が主催するフォーラム参加団体が集う夕食交流会へ参加しました。

他県の参加者とも、積極的に交流を図ることができました。

夕食交流会

青少年ピースフォーラム　Ａコース（２日目）

長崎市平和会館で「青少年ピースフォーラム」２日目が開催されました。「平和な世界をつくるために～届けよう！平和の想いを私から～」というテーマのもと参加型学習を行いました。前日の意見交換の内容を踏まえて、グループごとに「平和のために身近にできること」について話し合い、その内容をもとに、平和宣言文を作成し、発表しました。本市の生徒は、積極的に話し合いに加わったり、グループを代表して発表するなど、随所に意欲的な姿勢が見受けられました。

ピースボランティアの方たちと仲良くなりました

ピースフォーラム終了後みんなで記念撮影

国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館にて

派遣生徒の皆さんへ

「長崎において様々な経験をしたことは、戦争の脅威、平和の尊さについて考えるよい機会となったのではないかと思います。

今回の派遣で学んだこと、経験したことを忘れることなく、今後も『平和な世界』を実現するため、学習に励んでもらえると幸いです。」

長崎平和宣言

69 年前のこの時刻、この丘から見上げる空は真っ黒な原子雲で覆われていました。米軍機から投下された一発の原子爆弾により、家々は吹き飛び、炎に包まれ、黒焦げの死体が散乱する中を多くの市民が逃げまどいました。凄まじい熱線と爆風と放射線は、７万４千人もの尊い命を奪い、７万５千人の負傷者を出し、かろうじて生き残った人々の心と体に、69 年たった今も癒えることのない深い傷を刻みこみました。

今も世界には１万６千発以上の核弾頭が存在します。核兵器の恐ろしさを身をもって知る被爆者は、核兵器は二度と使われてはならない、と必死で警鐘を鳴らし続けてきました。広島、長崎の原爆以降、戦争で核兵器が使われなかったのは、被爆者の存在とその声があったからです。

もし今、核兵器が戦争で使われたら、世界はどうなるのでしょうか。

今年２月メキシコで開かれた「核兵器の非人道性に関する国際会議」では、146 か国の代表が、人体や経済、環境、気候変動など、さまざまな視点から、核兵器がいかに非人道的な兵器であるかを明らかにしました。その中で、もし核戦争になれば、傷ついた人々を助けることもできず、「核の冬」の到来で食糧がなくなり、世界の 20 億人以上が飢餓状態に陥るという恐るべき予測が発表されました。

核兵器の恐怖は決して過去の広島、長崎だけのものではありません。まさに世界がかかえる“今と未来の問題”なのです。

こうした核兵器の非人道性に着目する国々の間で、核兵器禁止条約などの検討に向けた動きが始まっています。

しかし一方で、核兵器保有国とその傘の下にいる国々は、核兵器によって国の安全を守ろうとする考えを依然として手放そうとせず、核兵器の禁止を先送りしようとしています。

この対立を越えることができなければ、来年開かれる５年に一度の核不拡散条約（ＮＰＴ）再検討会議は、なんの前進もないまま終わるかもしれません。

核兵器保有国とその傘の下にいる国々に呼びかけます。

「核兵器のない世界」の実現のために、いつまでに、何をするのかについて、核兵器の法的禁止を求めている国々と協議ができる場をまずつくり、対立を越える第一歩を踏み出してください。日本政府は、核兵器の非人道性を一番理解している国として、その先頭に立ってください。

核戦争から未来を守る地域的な方法として「非核兵器地帯」があります。現在、地球の陸地の半分以上が既に非核兵器地帯に属しています。日本政府には、韓国、北朝鮮、日本が属する北東アジア地域を核兵器から守る方法の一つとして、非核三原則の法制化とともに、「北東アジア非核兵器地帯構想」の検討を始めるよう提言します。この構想には、わが国の 500 人以上の自治体の首長が賛同しており、これからも賛同の輪を広げていきます。

いまわが国では、集団的自衛権の議論を機に、「平和国家」としての安全保障のあり方についてさまざまな意見が交わされています。

長崎は「ノーモア・ナガサキ」とともに、「ノーモア・ウォー」と叫び続けてきました。日本国憲法に込められた「戦争をしない」という誓いは、被爆国日本の原点であるとともに、被爆地長崎の原点でもあります。

被爆者たちが自らの体験を語ることで伝え続けてきた、その平和の原点がいま揺らいでいるのではないか、という不安と懸念が、急ぐ議論の中で生まれています。日本政府にはこの不安と懸念の声に、真摯に向き合い、耳を傾けることを強く求めます。

長崎では、若い世代が、核兵器について自分たちで考え、議論し、新しい活動を始めています。大学生たちは海外にネットワークを広げ始めました。高校生たちが国連に届けた核兵器廃絶を求める署名の数は、すでに 100 万人を超えました。

その高校生たちの合言葉「ビリョクだけどムリョクじゃない」は、一人ひとりの人々の集まりである市民社会こそがもっとも大きな力の源泉だ、ということを私たちに思い起こさせてくれます。長崎はこれからも市民社会の一員として、仲間を増やし、ＮＧＯと連携し、目標を同じくする国々や国連と力を合わせて、核兵器のない世界の実現に向けて行動し続けます。世界の皆さん、次の世代に「核兵器のない世界」を引き継ぎましょう。

東京電力福島第一原子力発電所の事故から、３年がたちました。今も多くの方々が不安な暮らしを強いられています。長崎は今後とも福島の一日も早い復興を願い、さまざまな支援を続けていきます。

来年は被爆からちょうど 70 年になります。

被爆者はますます高齢化しており、原爆症の認定制度の改善など実態に応じた援護の充実を望みます。

被爆 70 年までの一年が、平和への思いを共有する世界の人たちとともに目指してきた「核兵器のない世界」の実現に向けて大きく前進する一年になることを願い、原子爆弾により亡くなられた方々に心から哀悼の意を捧げ、広島市とともに核兵器廃絶と恒久平和の実現に努力することをここに宣言します。

2014年（平成26年）８月９日

長崎市長　田上 富久

平和への誓い

1945 年６月半ばになると、一日に何度も警戒警報や空襲警報のサイレンが鳴り始め、当時六歳だった私は、防空頭巾がそばにないと安心して眠ることができなくなっていました。

８月９日朝、ようやく目が覚めたころ、魔のサイレンが鳴りました。

「空襲警報よ！」「今日は山までいかんば！」緊迫した祖母の声で、立山町の防空壕（ごう）へ行きました。爆心地から 2.4 キロ地点、金毘羅山中腹にある現在の長崎中学校校舎の真裏でした。しかし敵機は来ず、「空襲警報解除！」の声で多くの市民や子どもたちは「今のうちー」と防空壕を飛び出しました。

そのころ、原爆搭載機 B29 が、長崎上空へ深く侵入して来たのです。

私も、山の防空壕からちょうど家に戻った時でした。お隣のトミちゃんが「みやちゃーん、あそぼー」と外から呼びました。その瞬間空がキラッと光りました。その後、何が起こったのか、自分がどうなったのか、何も覚えていません。しばらくたって、私は家の床下から助け出されました。外から私を呼んでいたトミちゃんはそのときけがもしていなかったのに、お母さんになってから、突然亡くなりました。

たった一発の爆弾で、人間が人間でなくなり、たとえその時を生き延びたとしても、突然に現れる原爆症で多くの被爆者が命を落としていきました。私自身には何もなかったのですが、被爆三世である幼い孫娘を亡くしました。わたしが被爆者でなかったら、こんなことにならなかったのではないかと、悲しみ、苦しみました。原爆がもたらした目に見えない放射線の恐ろしさは人間の力ではどうすることもできません。今強く思うことは、この恐ろしい非人道的な核兵器を世界中から一刻も早くなくすことです。

そのためには、核兵器禁止条約の早期実現が必要です。被爆国である日本は、世界のリーダーとなって、先頭に立つ義務があります。しかし、現在の日本政府は、その役割を果たしているのでしょうか。今、進められている集団的自衛権の行使容認は、日本国憲法を踏みにじる暴挙です。日本が戦争できるようになり、武力で守ろうと言うのですか。武器製造、武器輸出は戦争への道です。いったん戦争が始まると、戦争は戦争を呼びます。歴史が証明しているではないですか。日本の未来を担う若者や子どもたちを脅かさないでください。被爆者の苦しみを忘れ、なかったことにしないでください。

福島には、原発事故の放射能汚染でいまだ故郷に戻れず、仮設住宅暮らしや、よそへ避難を余儀なくされている方々がおられます。小児甲状腺がんの宣告を受けておびえ苦しんでいる親子も

います。このような状況の中で、原発再稼働等を行っていいのでしょうか。使用済み核燃料の処分法もまだ未知数です。早急に廃炉を含め検討すべきです。

被爆者はサバイバーとして、残された時間を命がけで、語り継ごうとしています。小学一年生も保育園生も私たちの言葉をじっと聴いてくれます。この子どもたちを戦場に送ったり、戦禍に巻き込ませてはならないという、思いいっぱいで語っています。

長崎市民の皆さん、いいえ、世界中の皆さん、再び愚かな行為を繰り返さないために、被爆者の心に寄り添い、被爆の実相を語り継いでください。日本の真の平和を求めて共に歩みましょう。私も被爆者の一人として、力の続くかぎり被爆体験を伝え残していく決意を皆様にお伝えし、私の平和への誓いといたします。

2014年（平成26年）8月9日

被爆者代表　城壇（じょうだん） 美弥子

その他　資料

被爆地・長崎での平和学習を報告

8月7日～10日までの4日間、市内各中学校の生徒8名が平和学習のため被爆地・長崎を訪れました。原爆資料館を見学した後、ボランティアの平和案内人とともに被爆遺構を巡り、青少年ピースフォーラムでは、参加した全国の青少年と交流を深め、被爆の実相や平和の尊さについて学習しました。また、平和祈念式典へも参列し、原爆犠牲者の冥福と世界恒久平和を祈りました。帰沖後、佐喜眞市長や保護者の方々へ学習の成果を報告しました。長崎で学んだことを多くの人に伝え、核兵器廃絶と恒久平和の実現に向け、平和の輪を世界中に広げていくことを願います。

平和案内人による被爆遺構巡り

平和宣言文作成(青少年ピースフォーラム)

原爆資料館を見学

原爆犠牲者慰霊
平和祈念式典へ参列

市報ぎのわん（平成26年10月号）

派遣生徒報告

「平和学習を終えて」

普天間中学校１年
宮里　麻比

私は、八月七日から長崎県で３泊４日の平和学習派遣事業に参加してきました。原爆の恐ろしさや、投下された後の悲惨さなど、いろんな事を学習しました。

初日は、長崎を観光しました。グラバー園と出島資料館、夕食の後は稲佐山ロープウェイに乗りました。稲佐山ロープウェイの展望台からみた長崎の夜景は、とても原爆が落とされたと思えないほどキレイな景色で感動しました。

２日目は、原爆資料館を見学しました。原爆資料館では、爆心地から 800m も離れた給水タンクの脚が曲がった状態、また高熱でビンが溶けてたり、実物大の長崎型原爆を目にし、爆心地からとても離れた場所でもこんなに被害があり、改めて原子爆弾に恐怖を感じました。その後は、平和ガイドの方による被爆遺構巡りがあり、たくさんの悲惨な事を教わりました。山里小学校について、平和ガイドの方から全校生徒 1580 人中 281 人が、助からなかったと聞かされ、ショックをうけました。当時、着工から 30 年かけて造られた浦上天主堂は、爆心地からわずか 500m しか離れていなかったため、倒壊、焼失したとの事でした。秒速、数百メートルの爆風で石柱がズレたり、目鼻や腕をもぎ取られたマリア像など、原爆の威力をイヤと言う程見せつけられた。

ピースフォーラムでは、原爆が投下されると熱線、音、光、においなどが同時に襲って来た。窓ガラスは、飛び、破片が体に突き刺さり、血まみれだった。真っ赤なけむりから真っ黒なけむりになった。被爆者の母さんは、全身真っ黒こげの状態で亡くなっていたり、目や内臓がとび出ていたり、皮膚が垂れ下がり、熱さで全身水ぶくれをした被爆者や、水を欲しがって亡くなった方々もたくさんいたと言っていました。その後、班のグループで交流を深めるゲームをしたり、「自分が平和だと思う時」を考え、グループごとにまとめました。

夕食は、長崎市が主催するフォーラム参加団体が集う夕食交流会へ参加しました。他県のみんなと自分の県の話をしたり、いろんな話をして楽しむことが出来ました。

３日目は、原爆犠牲者慰霊平和祈念式典に参列しました。その中で、長崎市長の田上市長が言っていた「もし今、核兵器が戦争で使われていたら・・・。」「核兵器の非人道性に関する国際会議」では、146 カ国の代表が人体や経済、環境、気候変動など、さまざまな視点から、核兵器がいかに非人道的な兵器であるかを明らかになり、そしてもし核戦争になれば、傷ついた人々を助けることもできず、「核の冬」の到来で食糧がなくなり、世界の 20 億人以上が飢餓状態に陥るという恐るべき予測が発表されたと言っていました。その後、ピースフォーラムでは、前日の続きで平和宣言文を作成し、発表し、ピースフォーラム終了した後、最後に国立長崎原爆死没者追悼記念館を見学しました。

私は、この平和学習派遣事業に参加して、平和ということを真剣に考えたこと無かったので、改めて事前学習の時からこの三泊四日の長崎での学習を行って今、現在よりも昔の人達はとても悲惨な目にあってかわいそうだなと思い、胸が痛くなりました。私達は、戦争っていう恐ろしいことを経験したことは無いが、経験者の講話を聞いているだけでとても残酷で恐ろしかったという気持ちが伝わるから、聞いた私達も周りの人達に伝えていけたらなと思います。

悲惨な目にあって命を落とした人達の分まで、今、私達が出来ることを精一杯努力し、平和な日々を送っていけるようにしていきたいです。

派遣生徒報告

「平和でありつづけるために・・・」

普天間中学校１年
砂川　美寿紀

私は、八月七日から八月十日までの間、宜野湾市の平和大使となり、長崎県に行くことができました。そこでは、私たちの住む沖縄では学べない、貴重な体験をすることができました。

一日目は、長崎市内の観光でグラバー園や出島資料館、夜には稲佐山ロープウェイに乗って、世界でもトップクラスの 100 万ドルの美しい夜景を見ることができました。69 年前に原爆で被害にあったとは思えない景色だったので、とても感動しました。

二日目は、長崎原爆資料館を見学、その後は平和ガイドさんによる、被爆遺構めぐりをしました。平和公園、山里小学校、如己堂、永井隆記念館などを見学し、映像を見たり、話を聞いたりして、全てが驚くほど残酷でした。そこで考えたのは、原爆遺構めぐりで見た記念館や小学校は 69 年前には原爆で被害にあっていた、ということです。それが、一部でも残っていることは、すごいと思います。少しでも後世に伝わってほしいという思いなのだと、改めて考えることができました。そしてその後は、青少年ピースフォーラムに参加しました。ピースフォーラムでは、被爆体験者の深堀さんに話をきいたり、青少年ピースボランティアの方々が紙芝居をよんでくださったり、長崎原爆の実相について学びました。その次に、班ごとに分かれて、グループで自己紹介をしたり、簡単なゲームをしたりして、グループの人となじめるようになりました。「平和な世界をつくるために～届けよう！平和の想いを私から～」というテーマのもとにグループで、平和なときと平和じゃないときを考え、みんなで意見交換をしました。他の人の意見をきいていたら、思っていた以上にたくさんあるんだなと感じました。それを、三日目のピースフォーラムで大きな紙にまとめて発表しました。他県の人としっかりと協力し合いながらできたのでよかったです。他のグループの発表も良かったので勉強になりました。

三日目は、長崎原爆平和祈念式典に参列することができました。このような式典などに参列する事はめったにできない貴重な体験でした。そして、長崎原爆投下時刻の十一時二分には、もう二度と戦争という悲しみだらけの事をしてはいけない、そして、世界に原子爆弾を落とさない、というみんなの願いをこめて、もくとうをささげました。一分間のもくとうを終えて、たくさんの鳥が羽ばたくのをみて、今はとても平和だなと深く感じられました。式典では、被爆者合唱が行われたり、長崎平和宣言、平和への誓い、などいろいろな事が行われました。初めての祈念式典で、特に印象に残ったのは、平和の誓いをされた被爆者代表の城だんさんがおっしゃっていた、「たった一発の原子爆弾で人間が人間でなくなる。皮ふがはがれおち、川でもがき苦しむ被爆者の悲しみを忘れ、なかったことにしないで下さい。」ということです。そうならないためにも私達のような子供が、体験者の話をきき、少しでも後世に伝えていく事が、今の私達にできる最も大きなことだと思います。

私は、このような体験を通して、平和をつくるのは私達。と考えることが出来ました。今でも世界では、戦争をしている国があります。なので、自分だけでなく世界の人々全員が、戦争を本当にやっていいのか。そして、平和とは何かを考えていける世界になればいいなと思います。

私達が目ざすべき目標は、「世界平和」だと思います。

派遣生徒報告

「『平和』の未来を生むために」

真志喜中学校３年
池間　ブランドン　慎

「平和」とは何だろう。僕はしばしば、そう思ったことがあります。僕たちが住んでいる現在の日本は、生産業や経済が発展し、争いごとも起こらず、とても豊かな国づくりをしていると思います。ですがその反面、この社会で人の命が奪われたり、他国でテロが起こったりしています。このようなことがある今改めて「平和」について考えると、本当にそう言えるだろうか。僕達が望む「平和」とは何か。その答えが知りたくて、僕は長崎に行きました。

長崎一日目は、長崎の町を観光し、長崎がどれだけ発展したかが、見れました。それはとても美しく、六十九年前のあの悲惨な出来事を忘れてくれるほどでした。

二日目は、長崎に落とされた原爆や、その被害の大きさを、被爆地巡りとピースフォーラムに参加して学ぶことが出来ました。そこで僕は原爆がもたらした死と被爆者の心の叫びを知り、悲しみと怒りで胸が痛みました。

三日目には、まず平和祈念式典に参加することで、被爆者の声や平和への願いを聞くことができ、僕達が平和のためにしていくことは何か。それを再びピースフォーラムに参加することで考えました。日本全国から多くの小中学生と触れ合いながら、自分の意見を述べ、僕に出来ることを考えることができて、とても充実しました。

この平和学習を通して、長崎県民の原爆に対する恐怖や絶望などを知り、改めて、戦争の悲惨さや命の尊さ、「平和」への思いなどを感じました。もう二度とあんな殺人機を生み出してはいけません。だから、僕達が長崎で学んだことを多くの人々に伝えていくこと。それが、僕達に必要なことだと思います。そして、僕達が沖縄県民ということも忘れず、戦争の被害にあった方々の思いを受け継いでいきたいです。

派遣生徒報告

「沖縄から日本へ、日本から世界へ」

真志喜中学校２年
タァ　ゼイヤ　シャミック

平和、幸せ。「そういう物を、日本へ世界へ広げていけたら―。」この気持ちを胸に、私は平和学習会に参加しました。

派遣一日目。とても緊張していました。会って二日目の人達とどういう風に接したらいいか分からなくて、初めとてもとまどっていました。でも、少しずつ言葉を交わしていけば、自然と相手との距離が縮まっていました。グラバー園、出島資料館、稲佐山の観光をし、ここに原爆が落とされたのかと、美しい街並みを見て、私は驚きをかくせませんでした。沖縄とは違った美しい風景でした。中でも、稲佐山の新三大夜景が印象深かったです。

二日目、私達は、原爆資料館、被爆遺構巡り、ピースフォーラム一日目を行いました。原爆資料館では、沖縄とは違った悲惨さ、苦しさを資料で感じ取ることができました。展示された多くの資料に、私は胸を痛めました。鉄をとかす程の熱線に、周りを一瞬で燃えつくす炎、そして放射線。とても信じられなかったです。でも、私達はそれらに目をそむけることなく、将来語り継がなければなりません。戦争の悲惨さを繰り返すことのないように、自分達の手で止めなければなりません。平和であることの大切さを改めて感じることができた一日でした。

そして三日目。私達はピースフォーラムに参加し、他県の生徒達と、「平和とは何か？」について意見を交わしました。言葉もイントネーションも違うけれど皆の思いは一つだと、感じることができました。

平和とは何か、幸せとは何か。私はこの学習を通して知ることができました。それは、戦争の悲惨さに目をそむけることなく、語り継ぐこと。私達は、被爆者の声を聞ける最後の世代だと言われています。自分達ができること。それは、相手を思いやり、正しい情報を語り継いでいくことだと思います。このことを胸に、沖縄から日本へ、日本から世界へと「平和」を広げていきたいです。

派遣生徒報告

「平和学習を通して学んだ事」

嘉数中学校３年
呉屋　武郎

僕は、平和学習で長崎に行きました。長崎では、「長崎原爆資料館」や「山里小学校」や「原爆落下中心地碑」などに行きました。半年前に修学旅行で行った場所でしたが、この平和学習では、平和ガイドの方が一つ一つていねいに説明してくれるので、より深く戦争の恐ろしさについて、考えることができました。

その中で一番心に残ったのは「平和公園」の中にある「平和の泉」に書かれている、ある少女の日記の内容でした。その日記には、「のどが乾いてたまりませんでした。水にはあぶらのようなものが一面に浮いていました。どうしても水が欲しくてとうとう油の浮いたまま飲みました。」

と書かれていました。日常生活では、ありえない想像を絶する状況であったことが伝わってきました。この水を飲んだ少女は、その何年か後に、死んだそうです。おそらく、このあぶらが浮いた水を飲んだことで、原爆の放射線が身体に入りこんだためだと思います。この話だけでも戦争のひさんさ、おろかさが伝わりました。同時に、今の生活がどれほど平和で、ありがたいものかということが分かりました。

３日目には、「原爆犠牲者慰霊平和祈念式典」に参加しました。その中では、長崎市長が、平和宣言の中で、もし今、核兵器が戦争で使われたら、「核の冬」で食料がなくなり世界の２０億人以上が、飢餓状態に陥るという恐るべき予測があると話していました。核兵器は、絶対に使ってはいけない、そして、一番大事なことは戦争をしてはいけないと思います。沖縄では地上戦が、行われましたが、約二十四万人の人が亡くなっています。

戦争は、多くの人を悲しませ、たくさんの人がなくなります。僕たちにできることは、二度とこのような惨劇をくりかえさないように、一人でも多くの人に、戦争のおそろしさを伝え、まず僕たちが行動し、世の中を変えていかなければなりません。

この平和学習で、学び感じたことを心に刻み僕は戦争をなくすために、行動します。

派遣生徒報告

「平和の尊さ」

嘉数中学校３年
平安山　里奈

一九四五年八月九日の 11 時２分、長崎に原爆が落ち、多くの犠牲者が出ました。

平和学習に行く前の私は、それくらいの事しかわからず、それまでにも特に深く原爆の事について考えた事はありませんでした。けれど、今回実際に長崎に行って様々な事を見て、聞いて感じた事は、こんなにも大きな事をなぜ知らなかったんだろうという事です。

今この時にも原爆の被害者が残り苦しんでいる方が、涙を流しながら私達に原爆の恐ろしさや苦しさ、そして悲しみを伝えてくれて初めて私は本当の原爆の悲劇を知ったと思います。

特に、平和式典で話をして下さった方の中の話で
「私が被爆者じゃなければ・・・」
という言葉が聞こえた時には、胸をしめつけられる想いでした。被爆した方は悪くないはずなのに、何故こうして苦しまなければならないのだろうかという
疑問が生まれました。

長崎に落ちた一発の原子爆弾の苦しみと悲しみは、70 年たった今でも消える事なく続いているんだという事を改めて感じました。

二度とこの悲劇を繰り返してはならないし 70 年前おこったこの苦しみを過去の事にしてはならないと強く思います。

今、世界中には約２万個の核爆弾があると言われています。この爆弾を落とすような事が起きてはいけない、そのために私達に出来る事は、平和への想いをつなげていく事だと思います。平和を願うだけではなく、私達から平和への行動を起こしていき、それをつなげる事、平和にはならないと思うのではなく絶対に平和にする！という強い想いを持ち続けたいです。

平和な環境にいる故に平和の尊さに気づきにくいかもしれないけれど、時には過去をふり返り、その悲劇から目をそらさずに、しっかりと受けとめ、今の平和を未来までつなげていこうと思います。

派遣生徒報告

「平和のありがたさ」

宜野湾中学校３年
大城　竜二

僕達は沖縄県宜野湾市を代表して平和について学びに行きました。

一日目は朝早くから飛行機に乗って沖縄から旅立ち九州へと向かいました。一日目は長崎市内を観光、グラバー園と出島資料館へいきました。グラバー園と出島資料館では昔の長崎について知る事が出来ました。夜は、ロープウェイを使って「世界新三大夜景」と言われる長崎の夜景を見に行きました。長崎の夜景は昔この地で原爆が落ちて一面がれきになったとは思えないほどきれいでした。

二日目は、原爆資料館に行き、原爆によって起きた様々な出来事を学びました。熱線によって溶けた皮ふ、爆風によって粉々になったガラスの破片が体中に刺さり、放射線は、外から受ける外部被爆、放射線を吸ってしまった事による内部被爆、それによって起こる脱毛、出血、白血病などがあり、それは、原爆を体験していない生まれてくる子ども達にも影響があるという事を知りました。他にも平和公園、山里小学校、如己堂、永井隆記念館、浦上天主堂、原爆落下中心地碑と色々な所を回り 69 年前の長崎を学びました。その日の午後は青少年ピースフォーラムに参加しました。被爆者の当時の話を聞きました。その話は今の日本では考えられない話ばかりでした。話を聞いた後は、班ごとに分かれて活動しました。僕は１班で皆まったく顔が知らない人達ばっかりでした。ですが意見交換やボランティアの人が企画したゲームなどをやっていくうちに仲良くなりました。その日の夜は夕食交流会というものがあり楽しかったです。

三日目は、平和祈念式典に参加しました。式典は山里小学校の児童合唱から始まり被爆者の話などを聞いて、平和への思いが高まりました。その日の夜は３日目の班と同じメンバーで平和宣言文を作りました。皆の意見を出し合って、予定時間ギリギリまで必死に書きました。とても楽しかったです。

僕はこの平和学習派遣事業に行って、今、自分がどれほど平和が当たり前になりすぎているかという事を知りました。平和はとても良い事だけどそれと同時に平和の大切さ平和のありがたみを忘れると大変だなという事を今回の学習で思いました。被爆者は今年で平均年齢 80 歳になり語っていくのが難しくなっていくと思います。被爆者は必死で本当に死ぬギリギリまで原爆の事を語って頑張っています。その頑張りをムダにして皆が原爆や戦争の事を知らない世の中になったらまた戦争が起きると思います。なので、もう二度と原爆被害者を出さないように子や孫の世代その次の世代もずっとずっと語り継いでいって世の中がずっと平和でいれるようにしたいです。「長崎を最後の被爆地に」という言葉がとても頭に残っています。その言葉を聞いた時、もう、戦争は絶対に起こしてはならないと思いました。

今回の平和学習は楽しくもあり胸が痛くもありとても貴重な体験でした。僕はとても平和のありがたみを感じました。

一生平和であり続ける事を心から願っています。

派遣生徒報告

「平和とは」

宜野湾中学校２年
宮城　凜子

「皆さんにとって、平和とは何ですか。」

八月七日から八月十日、私は宜野湾市平和学習派遣事業に参加しました。場所は被爆の地ナガサキです。この四日間は、私にとってとても自分の戦争への考え方を変えた四日間でした。

一日目は、グラバー園、出島資料館へ行き、夜には稲佐山をロープウェイで登り、世界新三大夜景の一つに入る夜の長崎の街を見ました。私が特に気に入ったのは稲佐山から見た夜景です。夜の黒にオレンジ色の灯りがとても栄えて、綺麗でした。そこで一日目は終了しました。

二日目は、午前中に原爆資料館を見学し、その後に、平和ガイドさんと平和遺構巡りをしました。そこで私はたった一つの爆弾がもたらした悲惨さを目の当たりにしました。今でも残されている溶けかけたガラスのビンやそのようなものが埋まっている地層など見ていて、「当時の景色はどんな景色だったんだろう。当時の人はどのような気持ちでその景色を見ていたんだろう」そんなことを思いました。午後は、青少年ピースフォーラムに参加し、被爆者の被爆体験を聞いたり、私たちにとって平和なとき、そうでないときはどんなときかの意見を出し合いました。夜は、班別交流会で全国の学生さんと交流をして、とても楽しかったです。二日目は貴重な体験をたくさんした日となりました。

三日目の午前中は平和祈念式典に参列しました。日本人のみならず外国の方々もたくさん来ていました。そこで私は、「世の中が平和であってほしい」と思う気持ちはどんな人でも変わらないんだなととても嬉しく思いました。午後からは青少年ピースフォーラムの二日目で、前日に皆で出し合った案をもとに班別に平和宣言文を作成しました。人それぞれ思う「平和」がどんなものなのかなど様々な意見があってとても良い体験になりました。その後には原爆死没者追悼平和祈念館で被爆者やその遺族の方々が書いた資料などを見ました。

この三日間、私は「六九年前、どれほどの人が悲しみ、怒り、泣き、悔やんだのだろう」そう思いました。ほんの一瞬で目の前の世界が変わる。とても信じたくないことだろうと思います。ですが、被爆者の方々はその事実に目を背向けるのではなく、もう二度とこんなことをしてはならないと私たちに伝えてきました。

この平和学習派遣事業に参加して、今を生きる私たちがどれほど幸せなのか、そのことがどれだけ素晴らしいことなのかを学ぶことができました。

そして、今回のこの事業に参加するにあたって私は自分なりに「平和」とはどういうものなのかを考えました。

私にとって「平和」とは、人々が互いに助け合い、支え合って笑顔で生きることだと思います。

私は、この派遣事業で学んだ、戦争はこの世にあってはならないものだということと、平和な世に感謝しこの「平和」を私たちが守り後世に伝えていかなければいけない。そう思いました。私はこれからも私にできることをし、いつか世界中全ての国が平和になることを願っています。

実施要綱

宜野湾市平和学習派遣事業実施要綱

（目的）

第１条　この要綱は、市の平和行政の推進を目的とする宜野湾市平和市民啓発事業の実施により市内生徒を原爆被爆地に派遣し、平和に関する学習、交流等を通して平和の尊さを学び平和思想に対する啓発を高めるために、市内生徒のなかから派遣される生徒（以下「派遣生徒」という。）を選抜すると共に、その役割及び平和学習派遣事業実施等に関する基本的な事項を定めることを目的とする。

（派遣生徒の選抜）

第２条　派遣生徒は、思想、信条、宗教の如何を問わず広く平和を愛する市内生徒のなかから以下の要領で選抜する。

(1)　派遣生徒は市内各中学校区から２名選抜し、定数は８名以内とする。

(2)　派遣生徒の対象学年は中学校全学年とし、選抜方法については各学校長に一任する。

(3)　派遣生徒は各中学校長名での推薦書（様式第 1 号）及び保護者の派遣同意書（様式第２号）を市長に提出し審査後、市長が派遣を決定する。

(4)　派遣が決定した後に、派遣生徒本人からの辞退申し出があった場合はさらに同一中学校区より補充し、決定する。

（役割）

第３条　派遣生徒は、日本国憲法の理念を大切にし、戦争のない社会、ひとりひとりの生命を限りなく大切にする人間尊重の社会を創り、それを発展させるための平和交流及び日常的に生活の中で平和について積極的な活動を行うことを役割とする。

（平和学習への派遣）

第４条　派遣生徒は、市の計画する以下の内容の平和学習派遣事業に参加し、平和への認識を深める研修・交流活動を行うものとする。

(1)　平和学習派遣は 8 月に実施し、派遣先は広島市、長崎市のどちらかを市が決定する。

(2)　派遣期間は原則として４日以内とする。

⑶　派遣生徒は市の計画する事前学習に積極的に参加するものとする。

(費用負担)

第５条　平和学習派遣に係る費用負担については以下のとおりとする。

⑴　派遣に関する費用(実費)については、旅費・交通費、宿泊費、食卓費、旅行保険費用については市の負担とする。但し、事前学習の交通費については派遣生徒の負担とする。

⑵　平和学習に関する費用(実費)については、参加料、講師料、施設入館料については市の負担とする。

⑶　事前研修及び派遣期間中に派遣生徒の責任により生じた経費及び疾病などによる経費は派遣生徒の負担とする。

(随行員)

第６条　派遣期間中においては、下記のいずれかの職員が派遣生徒を随行するものとする。

⑴　教育委員会職員

⑵　中学校教員

⑶　事務局職員

(派遣後の報告書の提出)

第７条　派遣生徒は、派遣事業終了後、以下の内容で報告書を提出しなければならない。

⑴　派遣生徒は派遣事業終了後１ヶ月以内に市長へ報告書を提出する。

⑵　前号で定める報告書は、400 字詰め原稿用紙２枚以上とする。

（事務局）

第８条　本事業の事務局を平和行政担当課に置く。

附　則（平成 17 年６月８日決裁）

附　則（平成 24 年４月 12 日決裁）

この要綱は決裁の日から施行する。

世界平和を希求する　反核軍縮平和宣言都市

宜　野　湾　市

平和都市宣言

我々宜野湾市民は、第二次大戦の悲痛な教訓を生かし、反核、軍縮を求める平和都市として次のとおり宣言する。

○　我が国は、非核三原則を国是としており、今後ともその基本理念である反核を全国民が連帯して推進しなければならない。

○　宜野湾市民は、宜野湾市を永久に反核、軍縮を求める平和都市とすることを決意し、人類の滅亡につながる核兵器の廃絶と軍備の縮小を核保有国に強く求める。

○　我が宜野湾市民は、子孫の繁栄を願い、世界平和を希求する諸国民と連帯して、米ソ両国に反核、軍縮を強く求め、恒久平和を築くため、全力を尽くすことを誓う。

１９８５年（昭和６０年）３月１８日
宜野湾市

資料提供　長崎市　被爆継承課

発行　宜野湾市
市民協働推進課　平和・男女共同係
〒901－2710　沖縄県宜野湾市野嵩 1－1－1
TEL 098-893-4411　FAX 098-892-7022
HP http://www.city.ginowan.okinawa.jp